事業完了報告書 （実行団体）

事業名:	LGBT中高齢者の働きがい・生きがい創出
資金分配団体名:	READYFOR株式会社
実行団体名:	特定非営利活動法人グッド・エイジング・エールズ
実施時期:	2020年11月～2021年10月
事業対象地域:	日本全域
事業対象者:	LGBT中高年当事者 （①特に生活を困難を抱えるLGBT中高年当事者 ②仕事をなくしたLGBT中高年当事者）

Version 3.0

日付： 2021年11月15日

Ⅰ．事業概要

事業実施概要	＜オンライン・オフラインでのLGBT中高齢者支援＞ （A：相談援助） 住まい・居場所喪失及び失業等の生活困難向け相談窓口の開設及び 生活支援に役に立つ情報を提供する動画配信 （B：働く場づくり）2020年10月に都内開設の「LGBT総合的支援センターPHTレガシーにて、LGBT中高齢者の知見経験が積極活用できる職提供。 ・ライフヒストリーのヒアリング調査に関連する業務（聞取り、書き起こし等）、 ・コミュニティカフェ運営、 ・アーカイブ管理、 ・動画作成に関連する業務など、 PHTレガシーの運営に必要な業務を行うことで、自尊感情・就労意欲を向上。他世代やアライとの交流経験を創出。

Ⅱ．課題・事業設計の振返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	(1)コロナ禍でLGBT当事者の居場所や心の拠どころとなるべく、誰でも気軽に来れるセンターを開設し、維持してきましたが、スタッフの感染防止のため現場体制の縮小を余儀なくされました。そのため対面で相談会を行う事業をオンライン配信による情報提供へと再構築を行いました。 (2)一方で、今回の事業では、中高年当事者に活躍する場を提供できました。 ヒアリング事業では、①話し手、②聞き手、③書き起こす人、及び、それぞれをおこなっていただく人を選任するためのコーディネート役としてのべ50人分、動画配信事業では、12本の動画を配信するために、①企画、②日本語字幕、③英語字幕、④手話通訳をそれぞれコーディネート役としてのべ48人分、①講師、②動画を撮影・編集をする人、③日本語字幕作成する人、④英語字幕を作成する人、⑤手話通訳を行う人を１２本分としてのべ62人分、合計のべ160人分の活躍する機会を創設することができました。ヒアリングの事業では、話し手からは「自分の人生を振り返る機会をいただいた。」聞き手からは「他の人の人生をじっくり聞けるのはなかなか得難い体験だった。」書き起こしを担当された方からは「自分の時間を有効に活用していただいてよかった。」との声をいただきました。また、動画配信事業に関わっていただいた人たちから、「コミュニティへ貢献できたことが報酬をもらう以上に嬉しい。」「これからもこのような仕事に関わっていきたい。」という声をいただきました。そうした役割を提供する事業を行うことで、より自己肯定感と社会参画感を高めることが可能となるとの手応えを感じています。 (3)カフェ提供により滞在機会を創設することができました。プライドハウス東京レガシーには、1年間で2,500名を超える方に来場をいただきました。そして、2021年4月から、コーヒー1,138杯、お茶197杯、合計1,138杯を提供いたしました。 　無料のドリンクを提供することで、1人でも訪問し滞在できるような雰囲気づくりができました。 また、提供する際にスタッフとのコミュニケーションを取る機会ともなりました。　そのため、居心地のいい居場所づくりとなるとともに、何気ない対話をする中で、相談支援に結びつけることができるなど相談ニーズの顕在化に資することなりました。 相談支援に結びついたものを具体的に言うと、当日相談に結びついた相談支援先としては、ユース向けのラップアラウンドサポートには、14件、暮らしの相談では、2件、法律相談では、１件、いのちの相談窓口には、2件ありました。また、他団体を紹介するものは、8件、トランスデイについては、６件紹介することができました。相談内容については、同性パートナー関係の法律的な保障に関する課題や性自認に伴う仕事にまつわる困りごとの他、外国籍の当事者が直面する困難などの相談支援を行うと共に、生活困窮などでは、専門的に支援する団体へ繋ぐこともできました。 (4) トランスジェンダーの方への支援を行うことができました。 　現在、トランスジェンダーへのバッシングがある中で、安心できる居場所が得難いトランスジェンダーの方々へ集え、相談できる場として、月２回トランスデイを行うことができ、設けることができました。

Ⅲ．今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察

生活困窮者	相談先の不足	A：困難に直面している人を受け止められる相談援助体制が整っている状態　【A1LGBT中高齢者向けコロナ関係の公的支援、就労、住まいの確保などテーマを決めた情報提供する動画配信】	動画配信の状況	動画配信が予定の本数を配信している。	動画配信の準備が完了し順次配信を行なっている。	12本の動画を作成し、視聴数は、435ビュー（2021年11月30日現在)となっています。動画の内容は、LGBTQ＋ 当事者にとって暮らしに役立つ情報を、法律、医療、福祉、労働、トランスジェンダーなどの様々な専門の方からお話ししたいただいており、困難に直面した場合に助けとなる情報や支援先を知ることができるようになりました。
その他	相談先の不足	A：困難に直面している人を受け止められる相談援助体制が整っている状態　【A2コロナの影響での生活困難に対する弁護士による相談会の開催】	専門家による相談会の実施	相談会が、定期開催できている。	相談会が、月２回定期開催できている。	8日開催し、8名の方の相談を受け付けました。個人ではアクセスしづらいLGBTQ+にまつわる法的な知識や当事者との相談経験のあるフレンドリーな弁護士にアクセスすることができる体制を作ることができました。
その他	相談先の不足	A：困難に直面している人を受け止められる相談援助体制が整っている状態　【A3来場者に対する相談スタッフによる生活支援の実施（定時：月２回、随時：来場者の求めに応じる）】	相談スタッフによる相談の実施	スタッフによる相談が、希望する来場者に対応できている。	スタッフによる相談が、日時を決めて予約を受け付けました。また、来場者の求めに応じています。	(1)トランスデイの来場者数(2021年3月から2021年10月)は、のべ213人となっています。1日当たり20名近くになる日もあり、平均13人で、他の日の1日当たり平均9人よりも多くなっています。同じような境遇にある当事者と話をしたいというニーズもあり、来場者同士の話し合いが自然と生じるなどピアサポートの場ともなっています。スタッフから個別に情報提供を行なったり、レガシーの相談支援を利用されている方が来場したり、来場者でセクシャリティについての話しをしたいという方をレガシーの相談支援につなげることもありました。 (2)暮らしの相談は５件となっています。トランス当事者への相談機会と居場所の創出や来場者に対して自然な形でスタッフが接する中で潜在化した相談ニーズを掘り起こすことができました。
求職者	就業困難	B：居場所や役割を持つ機会等を提供できる場所と支援体制が整っている状態【B1ヒアリング調査業務】	ヒアリング調査の実	ヒアリング調査実施予定数を行なっている。	予定していた10名分のヒアリング調査実施を行いました。	ヒアリング調査において、話し手と聞き手、書き起こしをそれぞれ、ピアな関係性の中で、調査を行うことができ、調査に関わる人に活動する機会を提供することなりました。る
求職者	就業困難	B：居場所や役割を持つ機会等を提供できる場所と支援体制が整っている状態【B2コミュニティカフェコーナーでの飲食の提供の業務】	コミュニティカフェの運営状況	コミュニティカフェが、適切に運営されている。	希望者にドリンクの提供を行うことができました。	コーヒー1,138杯、お茶197杯、合計1,138杯を提供いたしました。コロナ禍で仕事に影響を受けたカフェ就労経験のあるろう者のスタッフにカフェコーナーの運営をしていただくことができました。そのため今までの経験を活かすことにより円滑なカフェ運営の立ち上げを行えました。

求職者	就業困難	B：居場所や役割を持つ機会等を提供できる場所と支援体制が整っている状態【B3書籍や資料のナンバリングやリスト作成、データスキャン等のアーカイブ管理運営業務】	アーカイブ管理の実施状況	アーカイブ管理が、適切に実施されている。	関係する学術論文等を検索しリスト化を行うことができました。	コロナ禍で仕事に影響を受けた研究者の方に関わっていただくことができました。そのため専門的な知見を活かした検索等を行うことができました。

Ⅳ．アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）＊

事業実施以降に目標とする状況	LGBT中高齢者が、下記となるよう目標にします。 A:自分が困難に直面している状況にあることや相談援助を求めてもいいことに気づき、社会的資源を利用できる状態（利用者の90%） B:居場所や役割を持つことで自己肯定感と社会参画感を高め、就労に前向きになり、交流に積極的になれる状態（利用者の70%）
考察等	Aに関しては、12本の動画を作成し、視聴数は、435ビュー（2021年11月30日現在)となっています。動画の内容は、LGBTQ＋ 当事者にとって暮らしに役立つ情報を、法律、医療、福祉、労働、トランスジェンダーなどの様々な専門の方からお話ししたいただいており、困難に直面した場合に助けとなる情報や支援先を知ることができるようになりました。動画配信を視聴していただくことにより、どのような場合にどのような支援があるのかを具体的に知ることができ、受援行動を促すことができると思われます。また、トランスデイへの来場や法律相談・暮らしの相談を利用すること自体が社会的資源の活用している状況と言えますが、これらの相談へのアクセスしやすい環境づくりが求められ、かつ、必要な人にこれらの相談の存在を知ってもらう必要があることが今後の課題といえます。SNSで発信等の周知や他団体との連携を幅広く進めアウトリーチを積極的に行なっていきます。 Bに関しては、業務を行なっていただくことで、自己肯定感と社会参画感を高めることになりました。ヒアリング事業では、①話し手、②聞き手、③書き起こす人、及び、それぞれをおこなっていただく人を選任するためのコーディネート役としてのべ50人分、動画配信事業では、12本の動画を配信するために、①企画、②日本語字幕、③英語字幕、④手話通訳をそれぞれコーディネート役としてのべ48人分、①講師、②動画を撮影・編集をする人、③日本語字幕作成する人、④英語字幕を作成する人、⑤手話通訳を行う人を１２本分としてのべ62人分、合計のべ160人分の活躍する機会を創設することができました。ヒアリングの事業では、「自分の人生を振り返る機会をいただいた。」「他の人の人生をじっくり聞けるのはなかなか得難い体験だった。」「自分の時間を有効に活用していただいてよかった。」との声をいただきました。また、動画配信事業に関わっていただいた人たちから、「コミュニティへ貢献できたことが報酬をもらう以上に嬉しい。」「これからもこのような仕事に関わっていきたい。」という声をいただきました。そうした役割を提供する事業を行うことで、より自己肯定感と社会参画感を高めることが可能となるとの手応えを感じています。 また、来場者にとっても、「人生に対して前向きになれた」といった声を伺うなど自分らしく人生を生きることに積極的になれる状況を作り出すことができたと感じています。 　今後は、手話や英訳などのスキルをお持ちの方や相談支援を行える方に登録をしていただき、必要に応じて、出動していただけるような「情報保障・相談支援人材登録制度」を作っていくことや、中高年の生活困窮者を対象とするにあたり、デジタルデバイスの問題や生活困窮者ほどデジタル環境が悪いなど情報へのアクセスの壁があり、支援を必要としている方々へのアプローチが難しくなってきており、その解決のため、LGBT支援関連団体との連携はもとより、他分野の支援団体・機関との連携を深めることで、アウトリーチの機会を増やすことで、業務を行なっていただく方や来場者を増やしていくことなどに取り組んでいきたいと考えます。

」

Ⅴ．活動

活動	進捗	概要
A1LGBT中高齢者向けコロナ関係の公的支援、就労、住まいの確保などテーマを決めた情報提	計画通り	12本の動画を作成し、順次配信を行なっています。視聴数は、435ビュー（2021年11月30日現在)となっています。
A2コロナの影響での生活困難に対する弁護士による相談会の開催	計画通り	8日開催し、8名の方の相談を受け付けました。1日に二枠の予約枠を設定しており、16枠中、実際に相談を実施できたのは、その半分の割合となりました。なお、２件予約をいただいてキャンセルになったものもあり、それを含めると予約率は62%となりました。さらに、稼働率を上げるためにSNS等での周知等を進めていきたいと考えています。
A3来場者に対する相談スタッフによる生活支援の実施（定時：月２回、随時：来場者の求めに応じる）	計画通り	トランスジェンダーのためのトランスデイの月２回開催、予約制の暮らしの相談の実施の他、来場者からの相談を受け付けました。(1)トランスデイの来場者数(2021年3月から2021年10月)は、のべ213人となっています。1日当たり20名近くになる日もあり、平均13人で、他の日の1日当たり平均9人よりも多くなっています。同じような境遇にある当事者と話をしたいというニーズもあり、来場者同士の話し合いが自然と生じるなどピアサポートの場ともなっています。スタッフから個別に情報提供を行なったり、レガシーの相談支援を利用されている方が来場したり、来場者でセクシャリティについての話しをしたいという方をレガシーの相談支援につなげることもありました。 (2)暮らしの相談は５件となっています。クライアントの方は、まず、話したい、聞いてほしい、という場合が多く、丁寧に傾聴していくことで、相談後には、ほとんどの人がすっきりとした表情でレガシーを後にされていた。また、法律のことや、制度のことなど、専門性の高い相談については、弁護士などの専門家につなげることもできました。あるいは、ユースや高齢者などの相談については、その世代を専門に対応している団体・相談窓口などにつなぐケースもありました。 　暮らしの相談は、まずは傾聴し、クライアントさんにすっきりしてもらった上で、情報の提供をして、さらに必要があれば、専門家や専門の団体へリファーする流れができており、どんな相談事でも、まず初めにアプローチする相談窓口として、機能していたと考えています。

B1ヒアリング調査業務	計画通り	中高齢のLGBTQ当事者10名の方からライフヒストリーのヒアリング調査を行いました。当事者がどのような経験を重ね、そして今後の人生、特に老後にどのような希望をもたれているのかを詳細に報告した研究はないのが現状のため、今後は、引き続きライフヒストリーの記録を蓄積する活動を行うとともに、若い世代の当事者が困難に直面することを防ぐ、あるいは適切に対処するためのサポートを考えるうえで、どのような示唆をもたらすことができるか、また、当事者の方々が豊かな老後を過ごすためには、どのようなことが考えられるかを、この調査をもとに、分析していきたいと考えています。
B2コミュニティカフェコーナーでの飲食の提供の業務	計画通り	希望する来場者にドリンク１杯を無料で提供しました。コーヒー1,138杯、お茶197杯、合計1,138杯を提供いたしました。
B3書籍や資料のナンバリングやリスト作成、データスキャン等のアーカイブ管理運営業務	計画通り	アーカイブの資料のうち学術系の資料の検索等の作業を行い、CiNiiを利用したLGBT関連の雑誌記事のリスト化および論文の収集ができました。これにより、日本におけるLGBT関連の雑誌記事および論文を網羅することができ、LGBT関連の研究やレファレンスを行う基礎的なインフラを整備できました。

Ⅵ．想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	(1)1年間で2,500名を超える方には来場をいただきました。 2020年10月コロナ禍中で開設をし、コロナ禍における安心・安全な居場所のあり方、来訪者をどう迎え、スタッフはどう動いたらよいのか。感染予防対策をしながらどのように情報発信を進めるのか、試行錯誤が続きました。開設直後は、連日30人程度の来場をいただきましたが、年末に向けて、感染者が増えるにつれて来場者も減少してきました。緊急事態宣言の再発令を受けて、2021年1月7日～1月22日まで休館していましたが、1月23日から、感染症予防対策を徹底して開館しました。感染症対策として、入館時に利用者の方の検温・手指消毒をお願いし、施設内ではマスクを着用していただきました。定期的な換気・テーブルや椅子などの消毒も実施しました。また適切なソーシャル・ディスタンスを保つために、館内が混み合っている時は入館をお待ちいただいたり、時間をずらしていただくようご案内しました。館内で密になりやすい場所にはスタッフを配置し、距離を保つようお声がけする等を行いました。そうしたコロナ禍の中でも、下記＊のように一定の来館があり、確実なニーズを感じました。LGBT中高齢者から「長年隠してきた自分のセクシャリティが受け入れられる場所があるだけでも、人生に対して前向きになれた」といった声を伺うなど、入館時は緊張気味な表情だった方が、笑顔でお帰りになる様子を見ると、拠点があることの大切さを痛感し、居場所を持つことの有効性を知ることができた。＊1日当たりの平均来場者数の推移：１０月２５人、１１月２４人、１２月２８人、１月6人、2月８人、3月7人、4月8人、5月８人、6月９人、7月１０人、8月１１人、9月１０人、１０月１１人 (2)情報保障にあたっての人的なインフラが整備されました。多様な方にとっての居場所となるように施設のハード面のバリアフリー化やSNSでの多言語化に取り組んでいましたが、聴覚障害者に対する情報保障については、不十分だと考えていたところ、カフェコーナーのスタッフへの助成が決まり、スタッフとなる人を探していたところ、ろう者のスタッフにカフェコーナーの運営をしていただくことになりました。それにより、情報保障を充実させる契機になりました。 まず、筆談ボードやLive Talkを導入することができ、ろう者とのコミュニケーションや書き起こしや英語翻訳を効率よく行う基盤を作ることができました。 配信事業にあたっては、手話通訳や日本語字幕をつけることになりました。それにより、手話通訳をしていただける方とのコネクションを作ることができました。また、英語字幕を作成するにあたっても英語翻訳をしていただける方とのつながりができました。そうした、人脈を作ることができました。 (3)アーカイブ整理事業では、より専門的な調査を行うことができました。

Ⅶ．事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	(1)中高年の生活困窮者を対象とするにあたり、デジタルデバイスの問題や生活困窮者ほどデジタル環境が悪いなど情報へのアクセスの壁があり、支援を必要としている方々へのアプローチが難しくなってきており、その解決を考えなければなりません。 (2)また、カフェ事業は、生活困窮者への役割の提供となるが、接客業務となることから、対人的な課題を抱えている人にとっては、困難な面もあるため、他の就労支援を行なっている団体等との連携により、そうした人も含め支えていける仕組みを構築していきたいです。 (3)オンライン化の推進により整備された相談基盤を活かしていきたいです。 現在、予約制の法律相談や暮らしの相談については、対面のみとなっていて、コロナ禍や来場が難しい場合もあり、予約率が半数以下となっており、配置された専門家を活かせていない。今後は、オンライン会議を活用しての実施も検討していくとともに、周知を進めていきたいです。 (4)プライドハウス東京のミッションステートメント(https://pridehouse.jp/legacy/about/)にある「困難を抱える人（特にユースや複合マイノリティなど）への適切な支援を提供する窓口」となるため、多様な方にとっての安心で居心地のよい居場所となるよう情報保障の充実に取り組む必要があります。そのため、今回、情報保障にあたっての形成することができた人脈を活用できる仕組みを作っていきたい。　手話や英訳などのスキルをお持ちの方や相談支援を行える方に登録をしていただき、必要に応じて、出動していただけるような「情報保障・相談支援人材登録制度」を作っていきたいと考えています。

Ⅷ. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
LGBT支援法律家ネットワーク有志	5名の所属弁護士の方に法律相談の実施のご協力をいただきました。
手話フレンズ	動画配信における手話通訳の手配にあたり協力をしていただき、全ての動画に手話をつけることができました。

各種支援団体(認定NPO法人自立生活サポートセンターもやい、SR LGBT&Allies、プレカリトリーユニオン、NPO法人共生ネット　、LGBT法連合会等)	動画講師になっていただきました。
筑波大学	ヒアリング調査での調査設計に関わっていただきました。
Rebit	相談をいただいた方で、就職や就労環境について相談ニーズのある方をRebitが行うキャリア相談に結びつけることができました。
UNHCR	『世界難民の日」のパネル等の展示を行いました。
つくろい東京ファンド	路上生活になった方への緊急物資の配布拠点となりました。https://sekaibivouac.jp/

IX. インプット　※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	7,260,000	7,153,846	98.5%
	管理的経費	240,000	386,374	161.0%
合計		7,500,000	7,540,220	100.5%

補足説明	

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	別紙参照： https://docs.google.com/spreadsheets/d/1kQA6sT7Epl_PSlG3oQaDDZMgp2qJ3cJG/edit?usp=sharing&ouid=117098351242034545546&rtpof=true&sd=true
2.広報制作物等　当該事業費を使って製作したもの	(1)aktaとの連携マップ A6折パンフレットカラー4p、2021年8月製作：2,000部、 配布先：プライドハウス東京レガシー及びakta内、他関係団体、 https://drive.google.com/file/d/1tqrGteRLn8J9VfWWKpNMV_SZbLDYY77m/view?usp=sharing (2)「暮らしの相談」「法律相談」のバナーのデザイン 　①公式ホームページでの活用 暮らしの相談：https://pridehouse.jp/legacy/event/299/ 　　法律相談：https://pridehouse.jp/legacy/event/293/ ②　プライドハウス東京レガシーで行なっている相談事業の紹介資材「LGBTQ+相談窓口」での活用 　　（参考）A4片面カラー、発行：1万部、送付先：都道府県、市区町村の担当部署 https://drive.google.com/file/d/19amqGt5Jt257bunjVmJ5Lps8PT9tgb-t/view?usp=sharing (3)LGBTQ＋暮らしに役立つ情報シリーズ12選（YouTube動画配信） 　製作時期：2021年8月～同年10月、配信時期については下表参照 https://docs.google.com/spreadsheets/d/19BqHDT0Onp-j1xk-Nnp18ajEWUsv0CeDxDrLxGDoUVQ/edit?usp=sharing
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	別紙参照： https://docs.google.com/presentation/d/1SmGA94rokvxhdoON9hAqJaCAKSyW441vgO8f7y8hHPQ/edit?usp=sharing
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	

5.事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されましたか。		
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。（実施予定の場合含む）（複数選択可）	内部監査	

XII. その他

自由記述
プライドハウス東京レガシー全体としての実績としては、2010年バンクーバー以降展開された世界のプライドハウス史上初めてとなる東京2020オリンピック ・パラリンピック競技大会組織委員会による「公認プログラム」として、東京2020オリンピック ・パラリンピック競技大会期間中、LGBTQ+とスポーツ・文化・教育などに関する情報発信企画を展開しました。また、東京2020大会組織委員会 橋本聖子会長、日本オリンピック委員会 山下泰裕会長に来訪していただき、意見交換をする場を設けることができました。 今後は、LGBTQ+の人々だけではなく、すべての人に扉を開く常設センターとして、スタッフのチームワークをさらに高めて、来訪者や関係者のニーズを丁寧に受け止め、運営に反映していきます。また、他団体との協働も積極的に展開し、地元自治体、企業、コミュニティなど多様なステークホルダーとともに、よりよい環境づくりに取り組みたいと考えています。 そして、最後に、この度、緊急助成をしていただき感謝しています。センターを立ち上げ時から体制を整備するにあたり毎月の進捗報告の際などには、アドバイスや励ましをしていただくなど伴走型の支援を、心強く感じました。会計事務についても丁寧にご指導いただいたことは、事務執行の力をつける事にもなりました。助成をいただいた事業はどれも社会にとって必要な事業だと痛感していますので、継続し拡充していく方策を考えております。引き続きご支援いただけると助かります。